

剣道連盟

沿革

剣道とは、小学館発行の「大辞泉」によりますと「日本の武道の一つ。面・籠手・胴・垂などの防具を着装して、決められた相手の部位を竹刀で打ったり突いたりして勝敗を争う競技」とあります。

剣道の歴史は古く、その昔、日本に武士が誕生したころから、戦場で刀剣を使い戦った技術がスポーツ化したものであります。戦前、銃剣術とともに盛んに剣道大会が開催されていましたが終戦とともに木刀や防具が処分され、剣道大会も開かれなくなりました。

幕別町における剣道の復活は、昭和35年頃、(故)山口秀勝氏(役場勤務)を中心になり稽古が始まられた頃と言えます。

幕別町剣道連盟は、昭和40年に当時相川に在住していた松浦俊行氏(現全十勝剣道連盟副会長・前帶広柏葉高等学校勤務)を相談役に、町内の剣道愛好者を中心に結成されました。初代会長に大久保正司氏を選出し、全十勝剣道連盟に加盟するとともに初代幕別支部長に(故)山口秀勝氏が就任、剣道連盟の基礎づくりが行われました。

昭和44年には、第1回道民スポーツ大会が開催され、幕別町剣道連盟も参加し好成績を残しました。

昭和45年には、幕別町主催・幕別町剣道連盟主管による第1回全十勝剣道大会が幕別高等学校体育館で開催され管内各町村から1,000名を超える剣士が集い、以来、第12回大会(昭和57年)まで続けられ、十勝の剣道の普及に貢献しました。

また、幕別町剣道連盟結成とともに少年部の育成にも力を入れ、幕別・札内両地区に剣道少年団を組織し剣道の普及振興に努めました。

昭和56年から数年間にわたり、全十勝剣道連盟副会長・筒田芳包氏が札内に出稽古に訪れ、幕別剣道の指導・発展にご尽力いただいたことも記憶に新しい。

昭和59年4月、2代目会長に(故)山角芳信氏を選出。

昭和63年4月、全十勝剣道連盟幕別支部長に中橋定雄氏が就任。

平成8年10月には、幕別町剣道理盟主催による第1回東部十勝少年剣道交流錬成大会が札内スポーツセンターにおいて、池田・豊頃・浦幌・本別町から140名の少年剣士が集い開催されました。

現況と展望

平成8年12月、山角芳信氏が死去。平成9年2月、3代目会長に高橋秀昂氏を選出。

平成9年4月には、全十勝剣道連盟会長に黒沼友一氏(幕別町剣道連盟顧問)が就任。幕別町はもとより全十勝の剣道発展の牽引者として活躍いただいている。

幕別町剣道連盟結成とともに幕別・札内両地区に剣道少年団を組織し剣道の普及振興に努めてきましたが、近年の野球やサッカーなどのスポーツの発展の影にあっても両少年団とともに20名以上の団員を有し、管内の各種大会で優勝するなどその実績は高いものがあると確信しています。

また、幕別町剣道連盟の鍊成部として中学生以上の自主参加による土曜鍊成会があり、鍊士6段の黒沼友一氏を中心に幕別武道館と札内スポーツセンター武道室とで一週毎に会場を交代して稽古が行われています。

平成8年11月、土幌町で行われた第3回十勝剣道祭・団体戦（年代別の部）で見事準優勝をしました。

また、平成9年11月、音更町で行われた第4回十勝剣道祭・団体戦（年代別の部）でも第3位に入賞。また、個人戦女子（40歳以下の部）では、船津さゆりさんが見事優勝するなどその実績は高いものがあると確信しています。

戦後の主な選手は、大久保正司・（故）山口秀勝のほか、千葉恵博・高橋秀昂・関根恭一・橋本正司・山田一徳・妹尾英美・寺岡徹男・下直弘・原正満・佐藤俊克・岡定一・高橋信吾、札内では、（故）山角芳信・鳥羽誠市・中橋定雄・吉田久治・岩倉守・須崎昇・田崎迪夫・黒沼友一・二ッ山智・松本章信。また、女性では、松野陽子・中橋敏子・木村豊子・駒込綾子・平井尚美・船津さゆり・小西睦子らであります。

人生にとって遙かなる理想の道を追い求め、生涯をかけている指導者も、たゆまぬ精進と鍛練が必ずや己に何かを教えてくれると信ずるのが「剣の道」であり、いま無心に竹刀を握っている子どもたちが、いつの日か必ず第二・第三の黄金時代を築いてくれるであろうことを信じてやみません。

□平成9年度役員名簿

顧問	黒沼友一	(全十勝剣道連盟会長)
顧問	大久保正司	
会長	高橋秀昂	
副会長	中橋定雄	(全十勝剣道連盟幕別支部長兼務)
事務局長	原正満	(鍊成・指導委員長兼務)
事務局次長	菅好弘	
委員長	岡定一	(総務)
委員長	松本章信	(事業・審査)
監査	橋本正司	
監査	平井尚美	



会長
高橋秀昂

副会長
中橋定雄

事務局長
原正満

委員長
岡定一

委員長
松本章信



第2回東部十勝少年剣道錬成交流大会
(平成9年9月28日 札内スポーツセンター)



平成9年度全町剣道交流錬成大会
(平成9年12月14日 農業者トレーニングセンター)